

**景気動向に注意！原油高騰の影響で原材料
など価格が上昇傾向！依然、需要停滞感が強い。**

<コメント> 山口商工会議所では、管内中小企業88社を対象に景況調査を実施し、このほど平成20年1～3月期の実績と平成20年4～6月期見通しについての調査結果をまとめた。(回答数85社、回答率96.6%)調査は3ヶ月毎に行う。前年同月比の今期(平成20年1～3月)の状況について集計したところ、業況判断DIは前回同様マイナスとなった。業況判断DIは建設業で改善したが、全産業、各産業ともかわらずマイナスで推移している。売上については、全業種マイナスながらも建設業、小売業でDI値が改善した。仕入単価は、原油高騰などの影響からDIが以前増加傾向である。仕入単価上昇について引き続き注意が必要である。今期中に設備投資を実施した企業は全体の11.8%、来期設備投資を計画する見通しである企業は12.0%と、前回調査より設備投資意欲が後退している。

業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数増減	前回調査比
全産業	-39%	↘	-31%	↗	-30%	↘	44%	↗	-45%	↘	-6%	↗
製造業	-31%	↘	-25%	→	-31%	↘	77%	↗	-69%	↘	-10%	↘
建設業	-27%	↗	-17%	↗	-17%	↗	33%	↘	-25%	↗	0%	↗
小売業	-48%	↘	-52%	↗	-36%	↘	28%	↗	-52%	↘	-19%	↗
サービス業	-34%	↘	-17%	↘	-32%	↘	48%	↗	-33%	↘	7%	↗

産業別景況判断DI(前年同月比)の推移と来期見通し

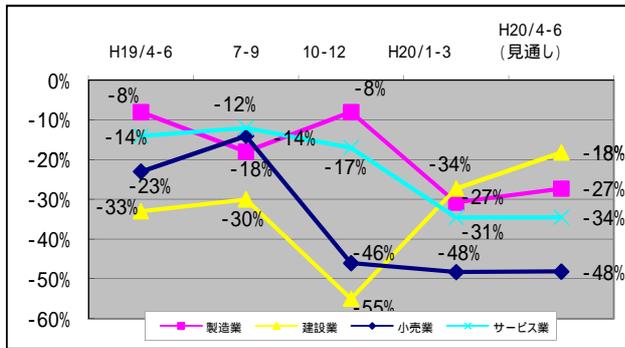
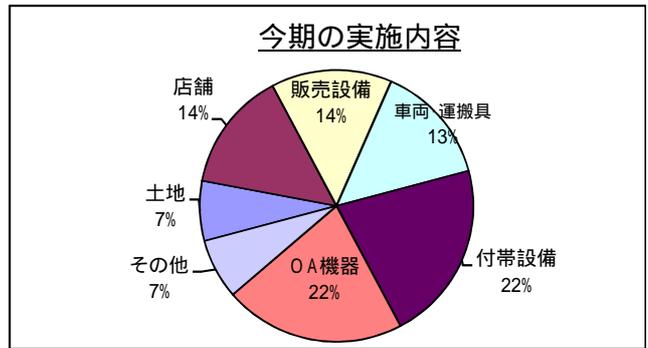


図1 今期中の設備投資の内訳(%)



全産業DI項目別比較(3期実績と来期見込比較)

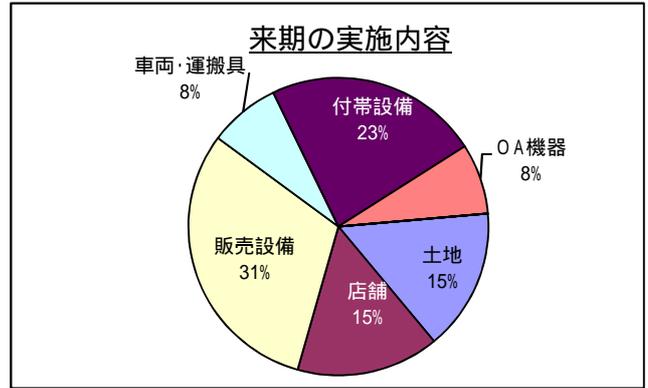
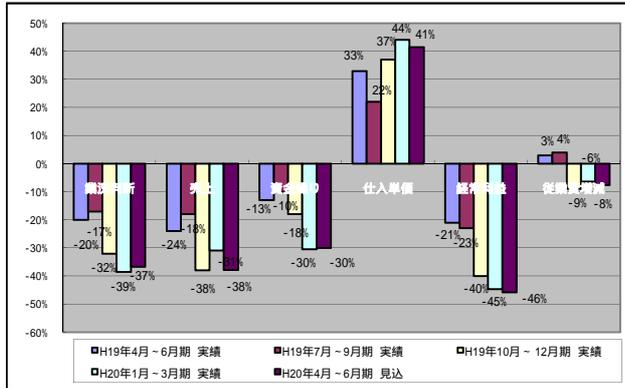


図2 経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	30.8%	材料価格の上昇	21.1%	消費者ニーズの変化への対応	16.7%	需要の停滞	22.5%
2位	原材料価格の上昇	18.5%	民間需要の停滞		需要の停滞		13.8%	
3位	製品(加工)単価の低下・上昇難	13.8%	請負単価の低下・上昇難	15.5%	大型店・中型店の進出による競争の激化	14.1%	利用者ニーズの変化への対応	16.0%

注) DI(状況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。